

平成 19 年 3 月 8 日
プラスチック容器包装リサイクル推進協議会
自治体調査専門委員会

『自治体と事業者の交流会』報告

- 《開催日時》：平成 19 年 1 月 25 日
《開催場所》：東京八重洲ホール
《参加者》：自治体関係者 34 名、事業者 45 名 計 79 名
《主催者》：プラスチック容器包装リサイクル推進協議会
《テーマ》：今自治体と企業（各主体）に求められていること
《開催趣旨》：プラ容器包装の分別収集についての相互理解を
《当日のスケジュール》：

時間	内容
10:00~10:10	主催者挨拶 プラスチック容器包装リサイクル推進協議会 会長 岩倉捷之助
10:10~11:00	基調講演 改正容リ制度について 環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部 企画課リサイクル推進室長 西村 淳 氏
11:00~11:40	講演 容リプラの今後の課題は何かー品質改善の重要性についてー 〔財〕日本容器包装リサイクル協会 プラスチック容器事業部長 畑 隆雄 氏
11:40~12:10	容器包装プラスチックにかかる札幌市の取組みについて 札幌市環境局環境事業部計画課 調査担当係長 菅原 祐雄 氏
12:10~12:20	質疑応答
12:20~13:10	***** 昼食休憩 *****
13:10~13:40	羽村市取組み事例紹介 羽村市産業環境部 生活環境課長 加藤 秀樹 氏
13:40~14:10	プラスチックについての企業の取組みと処理状況について 日本プラスチック工業連盟 専務理事 金子 勇雄 氏
14:10~14:40	平成 15~17 年度自治体実態調査報告 プラスチック容器包装リサイクル推進協議会 自治体調査専門委員会
14:40~14:50	質疑応答
14:50~15:00	***** 休憩 *****
15:00~16:20	各分科会懇談
16:20~16:50	各分科会報告
16:50~17:00	質疑応答・閉会挨拶
《オプション》： 17:20~19:30	懇親会 Alice 東京店

《分科会》:

自治体のご担当者・中間処理施設事業者・企業関係者による、情報の共有化をはかり、相互理解を深める場といたしました。

各テーマ話題にそって、活発な意見が交わされ、自治体調査専門委員のコーディネートにより皆様のご意見の概要を報告いたしました。その内容は以下の通りです。

第1分科会 話題： 分別基準適合物の品質向上をはかるためには・・・

参加者	自治体関係者	4名
	中間処理関係者	3名
	事業者関係者	6名
	コーディネート・書記	2名
	計	15名



ここでは、分別排出、収集、中間処理という3つのステージでそれぞれについてのお立場での意見がありました。

- ・自治体の方々から：現状についての報告に加え、汚れたものは出さないようにと指導しているが、これが埋め立てにまわるので、汚れの落ちやすい容器があればいい。分別方法についてはあるレベルのところは共通にすべきではないか。
- ・具体的な選別の指導や広報について：羽村市と同様に柏市における取組み例からも、自分たちが出したものが自分たちの使用するもの(ゴミ袋)に、再利用されているということが、市民の意識向上に大きな効果を持つ。
- ・中間処理の方から：今回の優良な自治体の例は信じられない。実情は収集品に汚れのひどいものや、禁忌品、医療廃棄物やオムツが入っている。汚れの基準がないので夏場における腐敗の問題もある。袋も二重、三重のものがああり、全部の破袋は難しい。そういったあたりを、直してもらわないといけない。
又、異物の多い自治体に出向いて指導・広報し、現状を改善したお話に加えて、今年の7月くらいから始まる、23区への容リプラの広報をして欲しい。
- ・事業者から：トレイの回収については、最初はきれいであったが、最近は汚れており、市回収のものはきれいだが、スーパー等は汚れている。団体から発信できる情報について、実態を把握しながら考えている。又、分別の仕方と、自分たちが分別しているものがどうなっているのか知る機会があることが重要であり、そこが行動へ差が出るところなのではないか。
- ・分別排出、収集、中間処理のどこに力を入れれば一番品質が良くなるかについて：排出者である消費者に力を入れるべきで、そのためには出前授業等で、どのように処理されて製品になっているのか、中間処理の苦労しているところなどを地道に教えていく必要がある。
- ・更なる材料別回収について：
自治体から・・・現状でも容リプラの理解がされていないのに更に材料別での分別は無

理。良いものを集めれば安くできるので条件付きで良いとは思いますが、品目を増やすことで収集コストがかかるのでほとんどの自治体は難しいと思う。

事業者から・・・日本はすべてを対象としてスタートしたが、本当にリサイクルすべきものだけにリサイクルマークを付け、他は外すということも必要ではないか。

中間処理関係者から・・・フィルム、ボトル、硬質系位に分けてもらえればやり易い。

・まとめとして

やはり分別排出の徹底が品質向上の鍵をにぎるとの意見が多く、そのためには住民の意識向上が重要です。一つには、「やらされている」という意識から「参加型」への変換であり、自分たちが排出したゴミがどのようにしてリサイクルされているかをもっとよく理解してもらう工夫が、収集、広報等で必要です。事業者においても、中身を出しやすい工夫や、分別のわかりやすい効果的な広報の要求もありました。

第2分科会 話題：より良い分別収集に求められることとは・・・

参加者	自治体関係者	4名
	事業者関係者	7名
	再商品化事業者	1名
	コーディネイト・書記	2名
	計	14名



ここで話された内容は、一番目に、分別することに関して更によくするためには消費者への周知が必要であるということです。具体的には、分かりやすいマニュアルが必要、自治体によっては、かなり前向きに取り組んでいる自治体もあります。

自治体の広報活動によって、実際にごみを出される市民の方々への啓蒙が不可欠です。もうひとつは、学校教育で、ある市ではパッカー車を小学校に持ち込んで、小学生4年生を対象にごみの分別教育をしている事例もあります。

二番目に異物に関する話がたくさん出され、汚れたものの区分については、95%の方がきちんと守っても、残りの5%の方が汚れたものを出した場合、ベールのランクがかなり落ちるといことです。

異物の割合を少なくするには、分別のレベルを高めることが必要ですが、容器包装に付けられている表示が、非常に分かり辛い、理解し辛い場合が多いという話も出て、いろいろ議論をしました。色を統一化するとか、表示位置を固定化するとか、様々な方法が考えられるが課題を残します。

収集したごみの再利用について、汚れているものを可燃ごみ化した方が良いとか、エネルギーとして利用する方法も一部で行われているし、推し進めた方が良いという意見も出ました。ダイオキシンの問題もとりあえず払拭されて、自治体の方々としては、一部プラを可燃ごみ化するという方向に持っていきたいのだけれども、以前の問題が尾を引いていて、地域住民の理解をなかなか取り付けにくい部分もあり、これもひとつ課題

になります。

将来的な方向ですが、プラ容器の中には、素材が単体のものと複合のものがあり、容器包装の簡略化は必要です。しかしながら、複合化したものについては、食品の安全・衛生や中身の保存性機能ということを充分考慮した上で決められている包装材料であり、それを例えばポリエチレンの単体にするると、賞味期限が大幅に短くなってしまったり、輸送中のトラブルとか、いろいろな問題が生じます。要するに、環境負荷のかからない包装材料が必要になってくると思います。

今回のような自治体・事業者・関連する皆様との情報交換を通じまして、本音で意見を出し合い、アイデアを出し合うことにより、より良い分別収集に適した容器包装材料が、改善を加えることによって生み出していけるのではないかという感触をもちました。

第3分科会 話題： 相互理解を深めるために企業へ望むこと、できること・・・

参加者 自治体関係者 8名
事業者関係者 9名
コーディネイト・書記 2名
計19名



ここで出された主なご意見は、

- ・プラスチック工業連盟などの協会が作成しているパンフレットを、市町村の説明会などいろいろなところで利用していただきたい。
- ・複合素材を、単一素材にと言う声はあまりなく、プラと紙の複合や、プラの容器のラップに値引きなどのシール紙が貼ってあり、それが剥がれないのが問題である。中間処理施設としては、手間が掛からず簡単に剥がせるようにしてほしい。
- ・複合素材と単一素材では食品の賞味期限が全く違うなどのお話は、初めて聞く内容で非常に興味があり、そのような情報をもっとあれば、市町村で市民などへの説明会で話すことができる。
- ・市民は、分別排出したプラが何にリサイクルされているのかを知りたがっている。自分が排出した廃棄物がどのようにリサイクルされているのかをピーアールされれば、もっと積極的に分別や洗浄を行うことができ、有効的なのではないか。
- ・市民が排出したプラをリサイクルして、又市民が排出するプラの袋に使用するといった、新しい試みを開始した事例や、PET ボトルをリサイクルしてゴミ袋を作り、それをまた市民がゴミ袋として利用するなどの事例は、材料リサイクルを進める上で、リサイクル品の利用度を上げるという意味では、良い例なのでないか。
- ・企業はリデュースのために複合素材にすることもある。洗剤の詰替容器の例でも判る様に、複合化によるリデュース効果は大きい。単一素材では減容化は難しい。
- ・広域化する際に、分別基準を統一するのが大変だった。
- ・一部有料化に対し、市民からは賛否両論あった。税負担の点での二重払いに対する反対意見と、分別に非協力的な方との不公平感からくる反対意見があった。現在は「分けたら無料、分けなかったら有料」と明確化している。

- ・今までプラは燃やせないごみだったが、分別洗浄し、汚れをとることでリサイクルできる。
- ・ 比較的年齢の高い市民が多く、識別表示が判りにくく、分別廃棄にとまどう市民も多い。などがありました。

まとめとしては、市民の意識を高め、協力度を更に上げるためには、基本的には「自分達が分別収集した廃棄プラがどのように活用されているか」を具体的な事例で説明することが効果的ではないでしょうか。

このためには、企業がプラスチックの特性や複合化の必要性等に関する情報を自治体に提供し、その情報を自治体が市民への説明に利用して市民の理解を深めるような広報活動が有効と思われます。

今後共、今回のような交流会を通じて、相互の意見交換をする場を設けてはどうでしょうか。

後記 自治体調査専門委員会から

分科会の席上では、お互いの本音を語り合え、又自治体の方の熱心さが感じられました。各分科会ともいつのまにか同じベクトルとなって議論が進み、相互理解する上で価値のある交流会であったと思います。今後も継続して開催していきたいと思います。ご協力ありがとうございました。今後ともご支援くださいますようお願い申し上げます。

— 以上 —